

## 平成 26 年第 10 回 教 育 委 員 会 定 例 会

平成 26 年第 10 回教育委員会が平成 26 年 10 月 17 日午前 9 時 30 分に招集された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- |         |  |
|---------|--|
| 1 日 時   | 平成 26 年 10 月 17 日（金） 午前 9 時 30 分から   |
| 2 場 所   | 本庁・第 2 委員会室  |
| 3 付議案件  | 別紙議事日程のとおり   |
| 4 出席委員  | 松 村 重 樹（教育委員長）<br>植 松 紀 子（委員長職務代理）<br>稲 田 瑞 穂（委員）<br>宮 川 保 之（委員）<br>坂 田 篤 （教育長）  |
| 5 出席説明者 | 絹 良 人 （教育部長）<br>栗 林 昭 彦 （指導課長）<br>粕 谷 靖 宏 （教育総務課長）<br>伊 藤 高 博 （図書館長）<br>森 田 善 朗 （博物館長）<br>清 水 明 （統括指導主事）<br>古 見 誠 （指導主事）<br>石 迫 沢 己 （指導主事） |
| 6 書 記   | 清 野 三起男・田 中 留 美  |
| 7 傍 聴 者 | 1 名  |

平成26年第10回清瀬市教育委員会議事日程

平成26年10月17日

午前 9時 30分

日程第1 会議録署名委員の指名

植松 委員

日程第2 教育長・教育部長より報告

日程第3 教育委員より報告

日程第4 議案 第17号 清瀬市教育委員会委員長職務代理者の指定について

日程第5 報告事項1 清瀬市就学援助事務取扱要領の一部改正について

日程第6 報告事項2 平成26年度教育委員会重点事業中間報告について

日程第7 報告事項3 いじめ調査月例報告について

追加日程第1 協議事項1 東京都市町村教育委員会連合会理事の選任について

追加日程第2 報告事項4 中学校の学校選択制受入枠について

日程第8 その他 今後の日程について

議事の日程並びに議事の概要並びに議決事項

委員長が開会を宣言し、議事に入る。

(松村委員長)

平成26年第10回清瀬市教育委員会定例会を開催いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名

委員長が植松委員を指名。

(松村委員長)

日程第2 教育長より報告をお願いします。

(坂田教育長)

おはようございます。本日は、10月1日に就任されました宮川委員をお迎えして、初めての定例会になります。よろしくお願いいたします。また後ほど、宮川委員からはご挨拶を頂戴したいと存じますが、始めに私から数点ご報告をさせていただきます。一つの節目であることから、もう一度私が考える本市教育の姿について、まず少しお話させていただきます。

私は4月1日からこの職に就かせていただいた時、東田前教育長から「清瀬の教育第2ステージを進める」というミッションをいただきました。「当たり前のことを当たり前にする教育」を理念とする現マスタープランは平成17年度に策定されました。10年を経過し、今、改訂作業に取り掛かろうとしているところですが、今日に至るまでの10年を第1期とすると、学校教育、特に子供の姿は当たり前のことができる理念に近づけたのではないかと考えています。委員の皆様方のご理解いただけていると思いますが、学校へ教育委員会訪問をしますと、子供達が落ち着いて授業を受けている姿に出会うことができます。また各種行事・運動会、合唱祭等に伺いますと、子

供達が真摯に取り組んでいます。また今回も読書感想文をお読みいただきましたが、そのような様々な作品等を見ても、子供達の力は確実に付いていると思っています。第2ステージを進めていくにあたり、当たり前のことができるとはどのようなことなのかをもう一度見直してみました。

学校教育にとっての当たり前のことは、子供を賢くし、生涯健康な生活を送ることができる体力を身につけ、規範意識や社会性、優しさや感動等の豊かな心を育むことである。いわゆる四文字熟語でいう「学力向上」「体力向上」「健全育成」です。改めて、この学校教育にとって当たり前のことができているのかを問い直した時に、胸を張って肯定できないのであれば教育は変わらなければならないと考えます。但し、この責任をすべて学校だけに求めることは全くございません。子供が育つ第一の学びの場である家庭や、コミュニティとして子供を育む地域の力は深刻な状態であります。学校も様々な課題を背負って、今沈没寸前であると私は考えています。ですからこの役割を家庭・地域に分散し、共同して子供達を育んでいくシステムがどうしても必要になってくると私は思っています。学校には、これまでも「ゲスト・ティーチャー」や「学校ボランティア」など、すでに多様な外部人材による支援が行われてきました。こうした関係をさらに拡大し制度化することによって、学校外の人的資源の教育活動への参画を促す必要があると考えています。そして、これまでの関係者という補助的・補完的な立場から、当事者へ昇格させ、責任を共有することによって、学校の課題対応力を拡大すること。このことは同時にコミュニティの再生につながると私は考えております。「おらが学校をおらたちの手でもっと良くしていこう」という思いを持つ人が学校に集うことで、支え合いの輪、元気の輪が広がっていく。その結果がコミュニティスクール構想です。私はこのことを「学校づくりはまちづくり」と称し、第2ステージは「地域との協働」が核となると考えております。委員の皆様方のお知恵と経験を集めながら一体となって子供達の為に知恵を絞っていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

2 点目です。先日、清瀬中と第二中の合唱コンクールに行って参りました。非常に子供たちが一生懸命歌っていました。これは先生方のご指導のおかげであって、子供たちの成長した証であると感じました。

私は、子供たちに手紙を書きました。その手紙の中で「実はあなた達の一生懸命歌っている姿は、地域を元気にしている。地域の大人達に勇気と希望とロマンを与えている」ということを書きました。

中学生というのは未来のスーパースターだと言った方がおりましたが、子供たちが一生懸命歌っている姿や物事に取り組んでいる姿というのは、10年後の清瀬の姿を予想させるわけです。10年後支えるのは彼ら達です。その子供たちが今、全力で行事に取り組んでいる姿というのが、まさに我々清瀬の市民にとっても夢の象徴でもあり希望の象徴でもあるというメッセージを発信いたしました。これから先も様々な行事が目白押しですが、是非子供たちの姿を見て、評価をしていただければと思います。以上でございます。

(松村委員長)

ありがとうございます。引き続き、教育部長からの報告をお願いします。

(絹教育部長)

おはようございます。私からは、今月2週にわたり日本列島を横断しました台風18号・19号についてのご報告をさせていただきます。

いずれも大型で強く、似たようなコースを進み、列島全体に被害をもたらしたものでございます。18号につきましては、10月3日に6日(月)の給食及び放課後補習教室の中止を決定し、周知は学校へ通知すると共に、市のホームページ、保護者への一斉メールを行いました。結果的には清瀬市に対する影響等を考慮し、6日月曜日の市内の公立小中学校の全日臨時休校としました。次に、19号については、台風が本土に接近する中で、登校時間帯の影響が少ないと判断し、通常登校といたしました。台風による被害は、

雨漏りはいくつかの学校で見られた以外は、幸いなことに学校関係の大きな被害はありませんでした。私からは以上でございます。

(松村委員長)

ありがとうございました。只今、ご報告に関しまして、何かご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。それでは続きまして、日程第3 教育委員報告に移ります。報告に移る前に、まず宮川委員が初回ということになりますので、ごあいさつをいただきたいと思います。お願いいたします。

(宮川委員)

おはようございます。宮川でございます。皆様のお席に就かせていただきまして、本当に心躍る思いでございます。

私は教育学を専門としておりますが、もう1つ自分の興味・関心として、都市再生ということに大変関心を持たせていただいております。こうした学びの幾つかを本市の発展に十分に活かせるよう、また貢献できるよう励みたいと思っております。教育委員会の皆様方のお仲間に加えていただきまして、また教育委員会事務局と様々な情報交流を共有いたしまして、適切な教育行政運営ができるように貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。

もう1点付け加えさせていただきますが、初めての仕事といいたししょうか、先般、清明小の運動会を拝見させていただきました。子供たちのはつらつとした動き、また一つ一つの子供たちの頑張りを拝見し、とても清々しい思いをいたしました。まだまだ子供たちの伸びしろがあると感じました。それはいずれの学校においても指導の方法や内容なりを更に工夫されていただきますと、もっと子供たちの力を伸ばしてあげられるのではないかと思います。そのようなことでお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(松村委員長)

ありがとうございました。早速、訪問をしてくださったということで、心強く感じています。それでは、順次ご報告をいただきたいと思います。

(植松委員)

9月30日に芝山小の教育委員会訪問に行き参りました。すごくまとまっていて、先生方も一生懸命かかわっていらっしゃる姿が見受けられました。私はここに赴任して、初めて訪問したのが芝山小でした。その時に、入学式で挨拶をさせていただいた時の校舎とまるで違って、びっくりしました。学校の中もきれいになっていました。運動場もきちんと整備されていて、これがあの時の小学校だったのかと、まだ3年前のことですが、とても感銘を受けましたので、校長先生にもお話ししました。3年前は、生徒数も非常に少なく、入学式も少なかったもので、大丈夫かなと心配に思いましたが、その後増えてきていますので、学校全体が賑やかになり、先生方も教えがいがあるのかと感じました。

10月10日に市町村教育委員会連合会の管外視察研修会に松村委員長と参加しました。この研修会には各市町村の教育委員会の方々が83名ほど参加しました。視察場所については、茨城県つくば市にあります予科練平和記念館、サイエンス・スクエアつくば、地質標本館、宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センターへ行き、1日がかりの研修会でしたが勉強になりました。また、各市町村のそれぞれの取り組みなどについて、情報交換等が行われましたが、清瀬市では松村委員長が取り組みなどについてお話いただきました。事前に原稿を用意して報告されている自治体もありましたが、松村委員長は、心にあるものをそのまま伝えていたので、受ける側には非常に心に伝わっていたように感じました。以上です。

(坂田教育長)

芝山小は、ことばの力を高めるために力を入れている学校です。具体的に、学力面でも表れています。これはしっかりと分析する対象となるのではないかと私は思っています。何が子供たちの意欲と学力に影響しているのか。我々はしっかりと把握しなければならないと感じました。

芝生開きも行って参りました。とてもすばらしかったです。東京新聞社が取材に来ておりました。以上です。

(稲田委員)

10月4日、清明小の運動会に行ってきました。午前中の最後の2種目、リレーと清明ソーランを拝見しました。清明ソーランは5年生以上かと思うのですが、選ばれた子供たちと下級生は別の方でそれぞれ踊っていて、伝統的になってきていると感じました。第八小の運動会の方にも伺いましたが、清明小は、ほこりが酷く芝生の方がいいと思いました。来年度を予定しているということですが、運動会を行える時期に芝生化ができるかということもあろうかと思いますが、やってあげたいと思いました。以上です。

(松村委員長)

では私からは、清明小の運動会は午後の最後の種目である組体操を拝見しました。初めて清明小の運動会に伺いました。中心から放射線状に流れるような形を作って、順番に動かしていくというような独創的なとても幻想的な組体操でした。よくある何段タワーというのもいいのですが、それはそれとして、こういうやり方をずっとしてきているのだということを改めて感じました。あれは1つ特色であると感じました。続いて、澄川喜一展ですが、博物館長、色々とありがとうございました。改めて拝見しますと、澄川先生はすばらしいですね。翌日は、阿刀田先生の講演会に参加しました。実際は作品しか分からなかったのですが、トークをお聞きして、読書に対しての阿刀田先



生のお考えが改めて分かりました。とても楽しい時間で、また聞きたくなるような内容でした。

芝山小の芝生開きですが、F C 東京のキャラバン隊が来て指導していただけるという部分に参加しました。子供たちの部分はいにくの台風の影響で中止となってしまったのですが、学校の先生方とサタデーのコーチを混ぜて指導してくださいました。その中で、F C 東京の方は当然サッカーをツールとして子供たちを見ています。例えば、女の子が入ったら、サッカーをやっている男の子の動きには当然ついていけません。この女の子は何をすればいいのか分からない。まさに女性の先生がそういった状態で、こういう時にどうすればよいかをまず実際にやらせてからその後で教えるといった形式で指導されていました。学校教育とは別の見方を教えていただいたというのが、良かったと感じました。先生方もそれを聞いていて、これからの子供たちの指導に役立てたいとおっしゃっていました。今あげた例は1つですが、他にもいろいろなパターンを試されました。沢山のメニューをお持ちで、その時々で指導者がどういう風に教えればいいのか、または教えてはいけないのかといったことを先生方は受講できたので、是非活かしていただきたいと思います。今のことを芝山小の先生方にお聞きいただき、良いと思うことは他校にも教えてあげていただきたいと思います。

市町村教育委員会連合会の管外研修については、植松委員とご一緒しました。日頃お付き合いはしていますが、改めて長時間お話できましたのは私にとって貴重な時間でした。また、台風の関係でマラソン大会が中止となったことが残念でした。

最後に1点、学校Webサイトがリニューアルされ、統一されて良かったと思います。残念なのは、来週「清瀬教育の日」が予定されていますが、時間割がアップされていない学校には、もう一度ご指導いただきたいと思います。学力調査の結果も出ましたので、少しそういった視点で見たいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

只今の教育委員報告に関して、ご質問がある方はいらっしゃいますか。ないようですので、進めます。日程第4議案第17号 清瀬市教育委員会委員長職務代理者の指定についてです。

こちらにつきましては、人事案件となりますので、非公開とさせていただきます。委員の皆様もよろしいでしょうか。

それでは、教育委員の方々以外の方は一旦ご退席ください。

(異議なし)

※委員以外退席

※事務局職員、傍聴者再入場

(松村委員長)

お待たせいたしました。委員長の職務代理者の指定につきまして、植松委員にお願いすることとなりました。それでは植松職務代理者から一言ご挨拶願います。

(植松委員)

荷が重い職に就くことになってしまって、果たしてできるのかと感じておりますが、松村委員長がしっかりされておりますので、引き受けさせていただきます。

(松村委員長)

ありがとうございます。では、日程第5報告事項1 清瀬市就学援助事務取扱要領の一部改正についてです。報告をお願いします。

(粕谷教育総務課長)

清瀬市就学援助事務取扱要領の一部改正についてご説明いたします。就学

援助事業は、小中学校に就学させる保護者の負担を軽減するため、一定の収入基準を下回る世帯に対して、学用品、給食費、修学旅行費等の学校で徴収する保護者負担金を就学援助金として給付する制度でございます。本事業は事務取扱要領に基づき処理されておりますが、このたび改正点が2点ございます。恐れ入りますが、新旧対照表をご覧ください。

1点目は、第3条の就学援助の対象者につきましては、これまで夜間中学校の在学者は、18歳以下の生徒を対象としておりましたが、事情により就学すべき年齢に中学校に就学できず、大人になってから夜間中学校に通う方にも、就学援助費の対象とすることができるよう改めたものでございます。

2点目でございます。就学援助に係る世帯の収入基準の基礎になる生活保護基準額が平成25年8月に引き下げが行われましたことに伴い、国からは生活保護基準改定により自治体が行う様々な制度に影響が出ないよう市町村がそれぞれ対策を講じるよう示されております。

本市では、事務取扱要領第4条第2号において「生活保護基準額は、前年4月1日現在の数値を使用する」とされ、本年度への市有事務への影響はございませんでしたが、平成27年度以降は、生活保護基準引き下げの影響が生じることになるため、できるだけ対象世帯への影響が出ないよう検討してまいりました。

結果といたしまして、平成27年度の就学援助事務に使用する生活保護基準としては、新旧対照表の附則3にあるとおり、生活保護基準改定前の平成25年4月1日の基準を引き続き使用できるよう事務取扱要領を改正したものでございます。なお、この要領改正は、平成27年4月1日から適用いたします。また、28年度以降につきましては、今後、国などから示される通達等及び近隣自治体の動向なども参考にして参りたいと考えております。

(松村委員長)

只今ご説明いただきましたが、ご質問ございますか。それでは日程第6報

告事項2 平成26年度教育委員会重点事業中間報告についてです。これは資料が事前配布されております。まずは各所管課ごとに報告をお願いします。

(粕谷教育総務課長)

平成26年度清瀬市教育委員会重点事業として、年度当初に掲げました事業の9月末現在の進捗状況につきまして、主管課ごとにご説明いたします。はじめに教育総務課では5つの事業を重点として取り組んでおります。1点目は、大規模改造事業で、第三小学校北校舎、第二中学校北校舎の老朽改修及び清明小トイレの改修工事と来年度に校舎改修を実施予定の第三中校舎改修の実施設計でございます。校舎、トイレの改修は学校の夏季休業期間を最大限に活用し、児童・生徒の安全と学習活動に支障の出ないように配慮して工事を行い、校舎につきましては大きなトラブルもなく第二中の一部外構工事を残してはおりますが、建物内は2学期の開始までに完了しております。

なお、清明小のトイレ改修は、部材の調達に遅れが生じたため2系統あるうちの1系統が2学期の開始に間に合わず学校にご不便をおかけいたしました。9月中旬には完了しております。いずれの学校からもきれいになり、子供たちも気持ち良く丁寧に使用しているとの連絡をいただいております。

来年度工事の第三中校舎の老朽改修の実施設計につきましては、設計業者が決まりましたので、学校、教育委員、設計業者の3者で学校の要望も踏まえた改修に向けて協議を行っております。また、来年度には消費税の増税の可能性、オリンピック需要による工事単価の増額も想定されますことから、工事計画に支障の出ないように積算してまいりたいと考えております。

2点目は、学校緑化推進事業でございます。この事業では、校庭芝生化を平成20年度から着実に推進する中、本年度は9校目となる芝山小の工事を7月から実施し、市内では初めて養生期間の短縮を目的にロール芝による施工を実施いたしました。芝生化工事に伴い既設の遊具、砂場を新たに更新することができました。9月中は養生期間とさせていただきましたが、これま

でより約1カ月早い10月から使用開始することができました。

また、来年度に工事予定の清明小の実施設計を行う業者が決まり、芝生化の位置や方法等につきまして、学校の使い方と地域開放も踏まえた中で整備方針を検討してまいります。

3点目は、学校給食調理の民間委託校の拡大でございます。来年度から新たに調理委託を開始する学校を第三小及び第四小と決定し、6月にはそれぞれの学校で保護者説明会を開催させていただきました。ご質問では委託すると何がかわるのか。献立は誰が作成するのか等、保護者が不安な部分の質問がございましたが、あらかじめQ&Aを作成して配布いたしましたので、改めて確認する形で説明を行ったところでございます。このQ&Aにつきましては、市のホームページにも掲示しております。業者の選定につきましては、公募を行い21社から応募がありました。8月下旬には学校の校長、栄養職員、保護者代表2名、教育委員会職員等で構成する第1回業者選定委員会を開催し、会社の規模や学校給食の実績、食中毒発生の有無、財務諸表による経営状態等を勘案して11社への絞込みが行われ、今月下旬には第2回選定委員会を開催して、業者へ質疑を行い各委員に採点していただくプロポーザル方式による業者選定を実施いたします。

4点目は、教育振興計画（マスタープラン）策定の検討でございます。本市では平成18年度に「清瀬市教育総合計画マスタープラン」を策定して教育施策を進めておりますが、10年間の計画年度が平成27年度をもって終了するため、新たな計画策定の準備を開始いたします。

本年度は教育委員会事務局の管理職と市長部局の企画課長で構成する検討組織により、現行マスタープランの課題整理、新たな計画の体系や期間、市の長期総合計画との整合性等について検討し、新たな教育振興計画の素案作成を行い、その後、有識者、市民、保護者を含めた検討会を設置する予定でございます。

5点目は、避難所運営協議会設置の準備でございます。全小中学校は市の

防災計画の中で、災害時の避難所に指定されておりますので、災害に備えて日頃から避難所となった場合を想定して地域住民を中心に保護者、学校関係者、市の防災担当、教育委員会職員が委員となり、非常用物資の保管場所の確認や避難所のルール作り、地域の防災訓練などについて協議する学校避難所運営協議会を全校に設置するよう進めています。現段階では14校中4校で協議会を組織して会議を開催することができました。会議には清瀬消防署の方にも参加いただき、今後も協力・連携していただけるとのことでございます。未設置の地域では自治会代表者の委員選出に苦勞している状況がございますが、できるだけ全校に設置できるよう取組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

(栗林指導課長)

指導課の重点事業につきまして、中間報告いたします。指導課では、全ての施策の根幹を児童生徒一人一人を大切にしていこうという特別支援教育の推進に置き、命の教育の推進と教師の指導力向上の2点に重点的に取り組んでおります。大きな1点目の命の教育の推進につきましては、体験的な学習の推進・充実を掲げ、取り組んでおります。赤ちゃんのチカラプロジェクトや認知症サポーター養成講座につきましては、各学校において取り組みが進めており、これらによって子供たちが自他の生命を尊重し、自尊感情を高める。それにより、いじめの問題の健全育成上の課題や対応を図っていくものでございます。今年度は特に、事前・事後の指導の充実を図ることで、効果をより確かなものにできるよう努めております。実施した学校からは、子供たちからの感想も寄せられておりますが、いずれの学校でも、命に対する認識の深まりが感じられるものとなっております。

次に、いじめ・不登校等の現状についてですが、月例の調査を実施しまして、問題が深刻な状況に至る前の段階で、学校や教育委員会が連携をしながら早期発見、解決を図る体制への取り組みを進めております。確認できた課

題につきましては、指導課が学校に詳しく確認をし、必要に応じて関係諸機関との連携やケース会議の開催を求める等、早期発見・早期対応を原則に取り組みを進めております。次に、教育相談に関してですが、今年度、市で採用しました巡回相談員を中心に定期的にすべての学校を巡回し、学級の様子や気になる児童生徒についての観察を行い、必要な支援に繋げる取り組みをしております他、指導に悩む教員への指導・助言を行う体制で充実を図っております。ただ、当初指導主事を同行させ、学級や子供についての情報収集を行い、必要な支援の提供の体制を考えておりましたが、現在この機能について滞りがあることから、今一度体制の整備を進めていこうと考えております。

大きな2点目は教師の指導力の向上でございます。主な取り組みとしまして、3点掲げております。まず、教育アドバイザーによる、初任者から4年次までの若手教員への指導でございます。年度当初、教育アドバイザーは4人の体制でございましたが、現在、小学校3名・中学校2名の元校長が計画的に各学校を訪問しまして、授業観察、指導・助言や指導にのるなどの活動をしております。これらのアドバイザーの活動もございまして、現在清瀬市内では、休みに入ってしまう教員は1名もおらず、個人差はあるものの順調に成長しているものと認識しております。

次に、各学校の研究についてでございます。都や清瀬市の研究指定を受けまして、それぞれ、様々な研究に取り組んでおります。指導課では、学校からの要請に応じて、研究内容について共に考える他、年度末に向けてのまとめや研究発表に係わり指導を進めております。また、研究の成果について、市内各校に水平展開を図っていくことも今後、私共が進めていく施策のポイントであると認識しております。その他、夏季休業日中を中心とした教員研修ですが、特に今年度は、頻発する体罰の課題について、清瀬市内で一切起こさないという覚悟から、全校で服務事故・体罰防止研修を実施いたしました。研修状況の報告をまとめる等、確認を図ってございます。他にも多くの

実践研究をお持ちの講師を多数迎えまして、指導力の向上をお願いとした研修計画を実施して参りました。今後初期の成果を上げられますよう、取り組みを進めて参りたいと考えております。以上でございます。

(絹教育部長)

続きまして、生涯学習スポーツ課の中間報告をいたします。山下生涯学習スポーツ課長が出張のため、私が代わって説明をいたします。

1点目はスポーツ振興事業の充実の関係でございます。多摩六都スポーツ大会の実施につきましては、平成26年11月18日実施予定となっており、現在開催に向け、準備を進めているところでございます。また、多摩島しょスポーツ振興事業によるサッカー教室の実施については、現在、なでしこリーグの日テレ・ベレーザ、JリーグJ2東京ベルディの育成スタッフとチャレンジリーグのスフィード世田谷チームにはベレーザチームとの親善試合を平成27年3月の実施に向け、現在調整中でございます。

2点目、各種講座の充実につきましては、4月からシニアカレッジの前期分、300名を超える応募をいただくなど、特に人気のある歌声喫茶については、150人の定員を既に上回っている状況でございます。

3点目、第6回石田波郷俳句大会の実施については、既に申し込み期間も終了し、全国41都道府県からの応募があり、投句数は昨年より1,642句多い10,435句でございました。小・中学生対象のジュニアの部では、市外が若干減少したものの、5,501句から6,857句と市内の小・中学生だけでも1,700句の増加となっております。また、一般の部は、2句一組の応募ですが、2,032句から2,176句と微増ですが増加しております。本市俳句大会の目玉となっている新人賞の部では、昨年の1,260句から1,400句とこれも増加しております。ジュニアの大賞には、第四小3年生の句「なす食べて じいじの気持 伝わるよ」、第二中2年生の句「割ることの できぬ思い出 すいか割り」が選ばれております。10月26



日のけやきホールにおきまして、各賞の表彰式がNHK俳句の初心者向けコーナーの俳句さくさくの選者を担当していただいている俳人の神野咲氏の講演会も予定しております。委員の皆様方には是非ともご来場いただければと思っております。

4点目、コミュニティプラザ・けやきホール・各地域市民センター・立科山荘の運営（指定管理者）につきましては、それぞれの実施事業を伴いまして、大きな事故もなく実施している状況でございます。保養事業の充実につきましては、長野県立科町にある立科山荘の屋上屋根の防水工事につきまして、既に工事業者と契約締結をし、資材等の準備期間を経て、11月末には工事が完了する予定でございます。また、来年度以降の指定管理者の選定期に当たっておりますが、立科山荘の選定委員会が10月に開催され、プレゼンテーションを受けた後、管理者の選定の手続きを進めております。

最後に体育設備の整備につきまして、下宿の第3運動公園テニスコート（6面）の人口芝化する工事につきましては、10月入札・契約締結を経て、年内には既存物撤去を完了し、来年の2月中には環境を整備し、全面人口芝に生まれ変わる予定でございます。以上でございます。

（伊藤図書館長）

図書館でございます。まず、開館40周年記念事業の実施でございますが、「市報きよせ」8月15日号に特集記事を掲載いたしました。その後、特別展示「ベストセラーで見る40年」を中央図書館2階におきまして、8月15日から9月14日まで実施をしました。また、10月5日の阿刀田高氏講演会では、子供の頃の読書体験や、伊豆の踊子の解釈、短歌や俳句、ことばあそびを例にとりまして、日本語のすばらしさのお話。最後に図書館のあり方などのお話をいただきました。

講演終了後もファンの方が本をお持ちになっていらっしゃり、サインをいただきまして、概ね皆さん喜んでお帰りになっていらっしゃいました。当日

は生憎の天候でしたが、114名の参加をいただきました。また、内藤直子氏の講演会が明日、ございます。定員35名で、こちらも定員以上の応募をいただいております。

次に、施設・設備の整備でございます。中央図書館自動ドアセンサーの改修工事を8月22日、同じく中央図書館市民憲章改修工事が8月31日に終了をしております。駅前図書館照明器具LED改修工事については、10月20日から27日の8日間で行う予定になっております。この工事に伴いまして、この間駅前図書館は特別整理休館とさせていただきます。

最後にハンディキャップサービスの推進でございますが、図書館ホームページへ目録を掲載するという事で、ハンディキャップの資料の抽出のプログラムの開発が9月末に終了いたしました。その後、この抽出のプログラムを使用し、ハンディキャップ専用資料の抽出をいたしまして、できるだけ早い時期にホームページへ目録の掲載を行いたいと思っております。利用案内の改訂ですが、ほぼ改訂作業は終わり、最終の確認作業に入っているところでございます。以上でございます。

(森田郷土博物館長)

続きまして郷土博物館です。郷土博物館の重点事業は3点でございます。まず1点目、郷土学習の推進についてでございます。開館30周年記念事業として企画いたしました、郷土カルタの作成につきましては、読み札と解説文の出筆が終了したところでございます。現在解説文を監修者へチェックしていただいているところでございます。絵札は12月末までに作成し、年明けには印刷したいと考えております。市史編さんへの協力については、市史編さん室長と緊密に連携し、進めております。これまで市史編さん委員の選出や市史編さん資料について意見を交わしております。

2点目、文化財保護の推進についてでございます。収蔵資料のウェブ公開準備については、資料のデータベース化を順次進めているところでござい

す。石碑・石仏再調査は、夏場に実施を予定しておりましたが、事情により実施ができなかったため、現在未実施の状況です。10月21日から11月13日までの期間で5回実施するよう計画をしております。

3点目、市民文化の意識向上についてでございます。開館30周年記念企画展「彫刻家澄川喜一と東京スカイツリー®」につきましては、10月4日に開始し、現在開催中でございます。本日までのところ、約900名の来場をいただいております。最終日まで残り3日となりますが、目標の1,000名を超えるものと考えております。澄川先生のギャラリートーク等には、60名を超える来場がございました。澄川先生のユーモアに溢れたお話に、参加された方々は大変喜んでおりました。また、第30回清瀬美術家展につきましては、11月15日からの開催に向けて順調に準備を進めております。現在は、ポスター・チラシの製作を終え、関連事業について先生方と調整を進めております。以上でございます。

(松村委員長)

ありがとうございます。只今、各課から今年度行われた事業の中で、重点事業の中間報告をいただきました。ご意見・ご質問はございますか。

(坂田教育長)

特に指導課ですが、施策効果を定量的に測定できる方法を是非検討していただきたいと思います。赤ちゃんのチカラプロジェクトもそうですが、子供の心理的内面の変化をどう捉えるかということ、学術機関等からのアドバイスなどをいただきながら、開発していただくことができればと思っております。以上です。

(松村委員長)

他にございますか。

(宮川委員)

ご報告ありがとうございました。様々な事業を計画的に進めていることを拝借したところでございますが、教育長からもお話がありましたように、それぞれの事業において、実施報告も大切ではありますが、成果に関してもう少し明確に明記できるスペースを報告書欄に加えるか、あるいは、報告の中でそこを意識してご報告いただければ有りがたいです。今後そこを加えていただければと思います。以上です。

(松村委員長)

只今、同じような意見をいただきました。是非ご検討ください。お願いします。では私から1点、生涯学習の各種講座があると思いますが、かなり人気のある講座があると思います。応募してもなかなか講座が受けられないといった地域の方からの声を耳にします。人気があるから講座を増やすという考えもあるかと思います。もう一つには、そんなに人気はないけれど、これは是非とも継続して清瀬の市民の方に受けていただきたいという講座もあると思います。できれば各講座の応募率というのを参考程度にお聞かせいただければと思います。次回で構いませんのでお願いしたいと思います。私からは以上です。他によろしいでしょうか。それでは次の日程に移ります。

日程第7 報告事項3 いじめ調査月例報告についてお願いします。

(清水統括指導主事)

お手元の資料に沿って、9月分の月例報告をさせていただきます。

今回の報告では、一定解消から解消に至ったという事案が2件ございます。1 ページ目 (3) 継続・新規事案詳細に掲載されていた②の2、5年生女児の事案ですが、(4) 解消事案詳細へ移動しております。また、まる数字で標記していますのが新規事案です。このような一定解消取り組み中から解消に至った事案を解消事案詳細にスライドさせ、継続・新規事案詳細のところに

9月の新規事案を入れ込んでおります。これを数字だけを取り出し、グラフ化したものが1ページ目の(1)になります。また、カラー刷りさせていただきましたのは、7月と9月の対応内容を見やすくするため、9月の対応内容を青文字にしました。内容を個々に説明しますとボリュームがありますので、2ページ目の下段の枠囲みの中は内容をまとめたものになっています。その中の青文字のアンダーラインの内容をご説明いたします。小学校の①のカテゴリーにつきましては、No.2の事案です。保護者と学校の双方の確認で、いじめがなくなったと確認がされ、解消の報告を受けております。またNo.5の新規事案ですが、周囲に対して暴言を出してしまう児童がおります。この児童から暴言的な言葉を受けた児童、ただしこの児童に対してのみではないのですが、その児童の保護者からいじめと学校からの報告を受けております。学校からの調査では、該当児童の表現方法の課題であり、特定の児童に対するものではなかったのですが、受け止め方ということがありまして、保護者の方へご理解をいただくのに困難さがあったということでございます。②のNo.2の事案ですが、これについても児童双方の話し合いを通じた指導が謝罪に至ったということで、解消と判断されたものでございます。3ページ目、④の物隠しの事案ですが、新規事案でご報告があがってきております。複数回物がなくなるということがあり、その都度学年指導と保護者への説明が続けられてきたが、隠した側の特定には至らないと報告をいただいています。当該校については、いじめ対策委員会を開催し、組織的対応を進められております。次にそのページの下段の二重囲みの欄ですが、大きく4点共通する事項が見えてきたというご報告です。①見守ることと解消の判断で、解消については今の2件の事案ですが、保護者と学校が協議の上で理解し、丁寧に実施されたことによる解消で、判断要素が共通に見られるということを改めて確認いたしました。②保護者対応は学校の姿を知らせることを確認させていただきましたが、保護者対応が困難な事案が複数ご報告いただいております。一定程度の状況が長期化することで、保護者感情に影響しているパター

ンが多いのではないかとということが見えてきています。学校の中でのお子さんの姿を如何に保護者の方へ伝えていくか考えていく必要があると感じているところです。③解消へ至るための期間の2か月間という数字については、前々回、お話させていただきましたので、④関与した者の間での事実認識の共有と納得で、2件の解消に繋がっていることが見えてきています。

次に、4ページ目の不登校の状況についてでございます。グラフを2つ並べました。左側が当月、右側が前月ご報告いただいたものです。中段の枠囲みの中のキーワードは前回、ご報告させていただいたものと共通したのとして各校における取り組み内容の件数が増加してきており、情報の共有が取り組みにおける多様性に繋がっていると考えているところです。また、グラフを見てわかるとおり、前月まで不登校日数30日のボーダー上に存在した児童の欠席日数が延びてきています。更に言えば、欠席日数に散らばりが見え始めていることで、様々な要因があろうかと思えます。一つ受け止めたいのは、長期化が進行していることを今後の学校の取り組みで真摯に受止める必要があることを改めて確認したいと考えております。次に中学校の不登校でございます。中学校については、適用指導教室の活用が図られてくるようになってきています。不登校状況からの脱出と様々な環境を経験する中で、周囲への接し方を身につけることなど、適用指導教室への通室は一つの選択肢としての重要な要素であると考えています。学校復帰を目指すという一つの選択肢として積極的に活用してほしいと考えております。長期化が進行しております。当然ながら長期化が進行するほどに学校復帰は困難になっていきますので、この状況下にあるケースについての促し策等を検討するとともに、予備軍である欠席日数30日未満の生徒への登校促しについても具体的に進めていきたいと考えております。

最後のページでございますが、二重囲みの中でございますが、不登校関係として、共通するところが見えてきましたので、3点あげさせていただいております。立科移動教室と表示しておりますが、学校行事でございます。立

科移動教室が一つのきっかけとなり、復帰に繋がったというご報告を頂いております。ほぼ完全復帰だそうです。一方、運動会で復帰を目指していたケースがあたりましたが、こちらは残念ながら運動会の参加ができませんでした。学校行事に向かう事前学習は登校への動機づけとなりうるということはいふまでもないことかもしれませんが、今回の事案からも立証されていると考えております。次に、部分登校という言葉を使いましたが、これについては、例えば保健室登校、教育相談室登校、あるいは、給食の時間だけといったことを学校が様々な形で工夫してやっていただいております。また、スクールカウンセラーとなら話すことができるといったケースもございます。このようなところに、再度力を注いでいただいて、登校できればいいという部分もございますので、その実現に向けて注力することの効果が見えてきているように思います。

3点目の関係の継続ですが、例えば家庭学習を毎日・毎週まとめて出すなどの取り組みをしていただいております。連絡や家庭訪問に付け加える形で取り組んでくださっているケースが多いのですが、このような取り組みによって、当然ながら学校と家庭との連絡が継続され、家庭から見れば学校の情報を得ることができるという取り組みでございます。本人と学校との距離感を縮める一つの手だてでございますので、学校に伝えていきたいと考えております。以上でございます。

(松村委員長)

只今のいじめ・不登校に関しましてご報告いただきました。ご意見・ご質問等ございますしたらお願いします。

(坂田教育長)

本市のこの調査は、大変丁寧な形で対応していると認識しております。おそらく多くの自治体の報告レベルはグラフ程度でしか示さないのではないかと

と思っています。これをすべて追って行かないといじめも不登校も解決は難しいという基本的な理念でこのような形で行っておりますが、これは是非、学校が意識していただかなくてはならない問題だと思っています。

自校のケースであると認識をさせていただき、他校の事例も参考にしながら危機意識を保ちつつ対応していくという指導をお願いできればと思います。

また、本日新聞報道で25年度の問題行動調査の結果が出ておりました。いじめの件数は1万8千件で減少傾向にあるということですが、本市のいじめ・不登校の前年度比の傾向をざっくりと教えていただいてよろしいでしょうか。

(清水統括指導主事)

25年、26年度を比較することは年度の途中ということですので、24年、25年度でご報告申し上げますと、いじめについては、24年度が小学校が33件、中学校が50件でしたが、25年度は双方とも12件となっております。ですので、かなり幅のある減少ということです。また、不登校に関してですが、24年度が小学校10件、中学校が42件。25年度は小学校20件、中学校52件で、若干の増加となっております。

(坂田教育長)

ありがとうございました。

(松村委員長)

他にございますでしょうか。

(宮川委員)

教育長がおっしゃっているように、ここまで細やかに、ましてや継続的に調査をし、学校がこのデータをお使いになって、毎回見直しをされているの



だろうとご推測いたします。もしそれがなければ、この調査も全く無意味だと思います。例えば、いじめの解消に至るための期間は2か月という二重枠囲みの中にもございますが、その中で特定できない、あるいは保護者対応の困難さというところが一つ、これからの対応の手がかりになっていくということが記されているかと思います。例えばこれを冷ややかな見方をすれば、初期対応がいかがなものだったのかということ、更に分析する必要があるのではないか。そこから解決策や学校・教員が力をつけていくことになるのではないかと考えましたので、また別の機会に教えていただきたいと思います。もう一つは不登校についてですが、登校を促す時期というのが、どういう時期なのかという幾つかの見解はでているかと思いますが、その最適な時期というものはやはり、個々によって違うと思います。例えば一つの結論として見えてきた「学校行事等」ということでございますが、学校行事等が、個人の心理や過去の経験など何か重なっている部分を見つけることが、促しのチャンスになってくると考えます。更に研究を進めていただきまして、これらの情報を各学校が十分に活用していただくことが必要ではないかと思います。

私は、素晴らしい取り組みであると感じております。

(松村委員長)

ありがとうございました。他にございませんか。それでは追加日程といたしまして協議事項1 東京都市町村教育委員会連合会理事の推薦についてです。これにつきましては、私からでよろしいでしょうか。こちらの役職に関しましても植松職務代理にお願いしたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

全員異議なし

(植松委員)

引き受けさせていただきます。

(松村委員長)

宜しく願いいたします。続きまして追加日程第2 報告事項4 中学校の学校選択制受入枠についてお願いします。

(粕谷教育総務課長)

平成27年度の中学校進学者の学校選択制度による受入枠を別紙のとおり各中学校の意見を踏まえて決定いたしましたので、ご報告いたします。清瀬中22人、第二中5人、第三中30人、第四中20人、第五中20人でございます。

昨年と大きな変化はございませんが、平成25年度に行った通学区域の見直しによる影響を考慮した2年間の激変緩和期間が本年度で終了いたしますので、平成27年度の新入生は、学校選択制の受入枠を超えた場合には指定校への通学を厳格化いたします。

このような中、第四中の生徒増が見込まれる反面、第二中から第四中への通学区域変更となる野塩四、五丁目には32人の小学6年生がおります。第二中は市内で1番多くの生徒が在籍する学校で、施設と学級数の面で受入枠5人と大変少なくなっております。全員が希望する学校に進学できるとよいのですが、本年度は第二中への学校選択希望者が受入枠を大幅に上回ることも想定され、この場合は公開抽選を行い、順位を決定してまいります。以上です。

(松村委員長)

只今の報告に関して、よろしいでしょうか。では、日程第8 その他 今後の日程についてお願いします。

(粕谷教育総務課長)

今後の日程につきまして、次回教育委員会定例会を11月19日午前9時30分より、中清戸地域市民センター・多目的ホールで予定しております。続きまして、10月23日、24日、25日の3日間は清瀬教育の日となっており、市内一斉授業公開日でございます。以上でございます。

(松村委員長)

ただ今、今後の日程についてご説明いただきました。この件に関しましてはよろしいですね。

以上をもちまして、平成26年第10回清瀬市教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 午前 11時 30分  
平成 26年 10月17日

上記のとおり会議の顛末、大要を記し相違ないことを証する。

清瀬市教育委員会

委員長 松 村 重 樹

委員 植 松 紀 子